

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570600381		
法人名	有限会社 楽さん家		
事業所名	24時間宅老所楽さん家		
所在地	防府市松崎町4-16		
自己評価作成日	平成24年8月28日	評価結果市町受理日	平成24年12月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多種多様に有る認知症も、一つの個性として受け全ての方が入居出来るように対応しています。その個性に対応できるスタッフ達が生活を支援します。本人、並びにご家族の、希望があれば在宅医療に向け医師と連携を取り終末を迎える事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長期の利用に伴う状態の変化で、気軽に外出できなくなった利用者が、遠方の自宅への訪問や初盆参りができるように、個別のイベント企画書を作成され、家族や協力医療機関と協力して、職員が力を合わせて馴染みの場所へ出かけるなどの支援をしておられます。年4回開催される家族会では、利用者が家族と一緒に楽しめるように、花見、納涼祭、紅葉狩り、クリスマス会等の行事を企画され、家族とのつながりを大切にされています。自治会や自主防災組織の一員として地域の防災連絡網に入り、運営推進会議で利用者の状況の理解を得たうえで、年2回昼夜間を想定した避難訓練を、地域の人と一緒にやっておられます。自治会の総会で参加の呼びかけをされ、多くの地域住民や利用者も参加して行われた避難訓練の実践を通して、地域住民とともに更なる安心や安全への検討をされるなど、地域との協力体制を築いておられます。看取りの支援にあたっては、利用者の状況の変化のたびに、主治医や家族、職員で話し合わせ、方針を共有され、主治医の指示を得て、緊急連絡網や急変時の対応を作成して職員間で共有してケアに取り組んでおられ、家族とともに利用者が穏やかに人生を過ごすことができるよう支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常時スタッフが見ることの出来るよう掲示している。「楽さん家の心」「楽さん家の心意気」として2つの理念を掲げておりスタッフ念頭におき、実践している	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をつくり、パンフレットに掲載し、食堂、スタッフルームに掲示して、管理者、職員は理念に沿った意識の統一を図り、職員全員が共有してケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加、ゴミ拾いなど参加している 事業所発行の新聞を個別に入居者の方と一緒に配布し近所のスーパーにも入居者で行き親しい関係を作っている	自治会に加入し、清掃活動や行事に参加している。事業所だよりを自治会に回覧したり、近隣の商店等に利用者と一緒に配布して、事業所や認知症の理解を得るよう努め、地域住民の見学を受け入れている。利用者は近くのスーパーでの買物や散歩の途中で地域の人と挨拶を交わすなど交流している。保育園児とのふれ合い、散髪ボランティアや歌のボランティアとの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトや普及啓発事業を開催し、取り組んでいる		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は各スタッフへ配布記入している、その後供覧を行い利用している	評価の意義を理解し、全職員が自己評価を記入し、供覧して、管理者がまとめている。評価結果についてミーティングで課題を検討し、応急手当や初期対応の定期的訓練を行うなど、改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その時々々の事例報告など行い討議された内容や意見を記録しサービスへ繋げている、自治会の皆様との防火訓練を行っている	2ヶ月に1回開催し、状況報告、看取り事例報告、避難訓練への地域の人の参加や協力等について話し合い、防災訓練に自治会の参加を得るなどサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議など出席してもらい、市との連携を行っている	市担当課、地域包括支援センターと運営推進会議の他、月1回市役所で行う地域ケアネットワークで話し合い、情報交換や連携に努め、協力関係を築いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の9時～17時までは施錠なし、18時～9時の夜間のみ施錠、身体拘束は行っていない	マニュアルがあり、研修を実施して、全職員が理解している。玄関は施錠せず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員自身のストレスマネジメントのトレーニングにも取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の会議にて虐待防止関連について話を持ちスタッフ間に意識付けをしている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会や研修に積極的に参加して行きたい		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問があればいつでも気軽に声をかけて頂けるようにし、契約の内容を文章及び口頭にて説明し理解をして頂いている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族要望シートの作成などを使用し、不満、苦情などを聞きスタッフミーティングや運営推進会議にて改善している、苦情の窓口も設け対応している	苦情処理体制や手順を明示し、入居時に家族に説明している。日ごろから意見や要望を言いやすい雰囲気をつくり、意見を「家族要望シート」に記録して、スタッフミーティングで話し合い、改善に取り組み、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に時間を作り意見や不満等を、管理者、主任が聞いている。また、毎月のミーティングで意見が出やすいような環境を作っている	管理者は日頃から職員に声かけをして意見を言いやすい雰囲気を作っている。月1回のミーティングに参加できない職員の意見も検討できるように、事前に「ミーティングレポート」を提出して、議題に取り上げられるように工夫している。会議のあり方や休憩時間のとり方を改善するなど、職員の意見を運営に反映させている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に合わせ、研修に参加できるような勤務体制にしている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ参加し内容をミーティングで報告し、資料や記録(感想等)の供覧を行っている	外部研修は段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供し、受講後は復命報告をしている。4ヶ月に1回の法人内研修に全職員が参加できるようにしている。内部研修は2ヶ月に1回実施し、外部講師を招いて、ケアの最新情報を得る取り組みもしている。新任職員は、外部の新人研修を受講する他、管理者や先輩職員がついて働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(社) 山口県宅老所グループホーム協会の学習会へ積極的に参加している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前後の細やかな情報を本人もしくは家人より話して頂ける環境を作っている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から相談や説明をする時間を持ち、入居後も気軽に相談や質問を「受ける体制」を作っている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援や介護が必要か本人や家族とも 話す時間をしっかり持つようにし、必要な支援をしている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力をいかし、出来ることや常に尊重の念と持ち接するよう心がけている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な不安や希望などを気軽に話してもらえよう、電話、手紙などを利用し又、来訪時もしっかり報告する形を取っている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参り、実家への帰宅等大切な人や場所へ足を運び、環境が途切れないよう支援している。入居時には本人の馴染みの家具や品物を可能な限り設置している、又、家族や知人がいつでも来訪出来るような環境にしている	利用者一人ひとりのイベント企画書を作成し、家族や協力医療機関と協力して、初盆参りや墓参り、実家訪問、家族との外食の支援をしている。家族や知人の訪問、併設のデイサービスを利用する知人の面会など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂や談話室を設け、利用者の個性に合わせ配置や席替えなどおこない関係を保っている。また、1人になる時間を希望で有れば自室など利用してもらう。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が出来る方には、コミュニケーションを図り、本人の思いや希望が把握できるよう努め、困難な方はご家族の希望・要望をしっかりと聴き、毎月のミーティングにて検討している	入居時のアセスメントの他、定期的に本人の希望や意向を聞いている。日々の関わりの中で把握した思いや意向は業務日誌に記録し、職員間で共有している。困難な場合は、本人の表情や行動から推測し、家族の要望シートも参考にして、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人より、入居前の生活歴や馴染みの情報を収集し、アセスメントシートを作成し生かしている、また入居後も情報の収集につとめている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常より入居者の事を理解できるように努めて、今現在も何が必要かを考慮している		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時家族からの情報を基に、アセスメントをしっかりと行いその方に合った介護計画を立て、家族の承諾を得、又定期的に見直しや評価を行い見返している	本人の希望、家族の要望、主治医の意見を取り入れて介護計画を作成している。1ヶ月に1回のミーティングで担当者を中心に利用者全員のモニタリングを行っている。1年に1回計画の見直しをする他、状態に合わせて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と合わせ、スタッフ間による気づきや工夫など反映できるよう業務日誌を利用しスタッフ間で共有している。月1回のケース・モニタリング検討会議を実施し、実践や計画につなげている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月開いているミーティングにて本人、家族の意見や希望があればサービスの調整をその都度行っている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物(丸久)支援、外出支援、訪問販売(ヤクルト)さくら会(歌のボランティア)など、楽しむ事ができるように活用している。又、地域の消防団の避難訓練などを通して関わったり地域のまつりや行事に参加できるようにしている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の近くにかかりつけ医があり、突発な体調変化など早急に対応していただいている。一人一人の状況を把握しておられ信頼できる関係を築いている	本人や家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医としており、必要に応じて紹介状をもらって他科の受診支援もしている。月1回往診があり、看護師が日常の健康管理を行い、緊急時や夜間の対応や看取りの支援など連携関係を築いている。受診結果は看護師、職員、家族で情報を共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員へ報告・連絡・相談をこまめに行い、業務日誌(医療報告欄)へ記載し共有している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が家族と同伴し、情報交換をするようにしている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常日頃より家人へ情報を提供し何度も話し合う機会を設け方針をその都度確認して行きスタッフミーティングでも情報を共有している	入居時に重度化した場合の対応を家族に説明し、同意を得ている。重度化した場合は、状況の変化のたびに主治医や家族と話し合っており方針を共有している。主治医からの指示を得て、緊急連絡網、急変時の対応を作成し、職員間で共有して支援に取り組み、これまでに9名の看取りをしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	急変時の対応の研修を行い、スタッフ全員取り組んでいる	ヒヤリハット報告書や事故報告書に事例を記入し、防止策や改善策を一人ひとりへの対応に反映させ、リスクマネジメント研修で具体例として検討して、職員間で共有している。消防署の普通救命講習の受講の他、看護師による応急手当や初期対応の訓練を3ヶ月に1回実施している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の私設消防団と協力体制を作り年2回訓練を行っている	自治会の自主防災組織の一員として防災連絡網に入っており、自治会総会で協力を呼びかけ、運営推進会議で利用者の状況の理解を得たうえで、地区の私設消防団(15, 6人)の協力を得て、年2回、昼・夜間を想定した避難訓練を実施している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人一人意識付けを行っている	利用者の気持ちになって言葉かけに配慮している。入浴時や排泄時は特に注意して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望ややりたい事を自己で決定できるよう努めている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望にその都度対応できるよう、スタッフ間の連携と徹底している		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みを聞いたり、散髪ボランティアを利用し身だしなみに心がけている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	要介護度も高くなり、実施困難となっているが、残存機能を見極め支援している	三食とも配食サービスを利用し、調理専門の職員が準備をしている。お茶を入れたり、茶碗洗いなど利用者はできることを職員と一緒にしている。回転寿司に行ったり、おやつやジュースなど好みの物を買ったり、お菓子作りをするなど、食事を楽しむ支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に水分のチェック表をつけて、体調管理をしている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている、その方に合った口腔ケア用具を用いて清潔の保持に努めている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し誘導を行っている	排泄パターンを把握して、一人ひとりに合わせた声かけをして、トイレでの排泄支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、乳製品などを積極的に飲用してもらい、腹部マッサージなどを施行し自然排便を促している		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日いつでも入れるようになっている 体調にあわせ入浴してもらっている	毎日いつでも入浴でき、入浴チェック表を活用し、1週間に1回は入浴できるように支援している。一人ひとりの希望や状態に合わせて、ゆっくり入浴を楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の状況などにあわせ必要時はお昼寝など声かけや支援をしている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフのすぐ目に入るところへ内服のファイリングを設置し確認が出来るようにしている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	医師、家族と相談し本人の体調に合わせて支援している	初詣、節分、ひなまつり、お月見、花火、蛍、七夕などの季節の行事、誕生日会、家族と一緒に納涼祭、月1回ボランティアとの歌、風船バレー、歌、貼り絵、お手玉、テレビ体操など、一人ひとりに合わせた楽しみごとの支援をしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に合わせ近くのスーパーで買い物、墓参り、家族と相談し帰宅などの支援をしている	その日の希望にそって、近くのスーパーへの買い物や散歩に出かけている。利用者や家族の希望を聞き、イベント企画書を作成し、墓参りや法事、帰宅、虫を見に行くなど家族や医師と協力して、個別の外出支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人よりお金を持ちたいと希望があれば可能な限り対応している		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者本人が電話や手紙を書く支援は出来ていない(入居者の自立度低下に伴い)		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるような工夫や(花などを飾る)写真など貼ったり、その時々に合わせて行事(花見、クリスマス会など)も行っている	居間兼食堂は大きな窓から明るい日差しが差し込み、花壇や畑を眺めることができる。利用者の油絵や墨絵の作品や思い出のある看板が飾っており、家庭的な雰囲気になっている。回廊式の廊下の所々に畳や腰かけられるスペースがあり、思い思いにくつろぐことができる。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士、会話や音楽鑑賞やTVをみたり、共同で楽しむ空間作りや廊下にはちょっと座れるように工夫した場所を設置している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの家具や家族や友人の写真などを飾ったりし、少しでも早く慣れ親しんで頂けるようにしている	居室は和室と洋室があり、好みで選んだり、家族と協力して畳を敷くなど、落ち着いて過ごせるようにしている。本人の馴染みの家具や時計、鏡台、椅子など持ち込んでいる。写真や本人の似顔絵が飾っており、ぬいぐるみや花を飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存能力などを把握し出来ること、やれることを見つけ生活してもらっている 手すりなどもしっかり設置し安全に努めている		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 24時間宅老所 楽さん家

作成日： 平成 24年 12月 14 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	応急・急変対応による知識不足。	事故防止の取り組みや事故発生時の備えについてスタッフ全員の知識・意識向上を目指す。	毎月のミーティング内で、入居者一人ひとりのリスク対応方法を検討し、看護師による応急手当や初期対応について説明・訓練を行っている。	9か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。